
涙雨

タケノコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

涙雨

【Nコード】

N4811U

【作者名】

タケノコ

【あらすじ】

小雨がぱらつき始めた。長い髪を後ろで一つに結った夏子は学生服をはためかしながら公園の木陰に避難する。そこに新たにやって来たのは達雄で……。

小雨がぱらつき始めた。長い髪を後ろで一つに結った夏子は学生服をはためかしながら公園の木陰に避難する。そこには先客がいた。

「ニャーオ」

ふっくらとした白い猫だった。そいつは夏子に人懐っこく顔や体をすりつける。夏子はそんな猫を愛しげに思い屈んで猫の額を撫でてやる。雨は霧雨にうつろいだ。夏子は

「猫君、君も雨宿り？」

猫は夏子の目を見つめると優しく微笑み「ニャーオ」と言った。公園は徐々に雨脚が激しくなる音しか認識できない。そこへ鞆で頭を庇い水溜まりを踏みながら走り達雄がやって来た。短い髪で目鼻立ちがくっきりして中々の美少年の達雄も夏子達と同じ木の下に落ち着いた。達雄は

「夏子、それにルーン」

夏子は立ち上がると右手を口元にあて言った。

「達雄君……えと……この猫ルーンって言うの？」

「うん、そうだよ。飼ってるんだ。よく迷子になるのが玉に傷だけだな」

ルーンが達雄に擦り寄る。達雄は頬を赤く染めると決心したような表情で

「夏子……その……俺がお前に告白して……もう一週間だ……そろそろ返事をくれないか？」

夏子は「ボツ」と顔を赤らめると口を開いた。

「私……達雄君素敵だと思う……でも……」
「でも、何？」

夏子は視線をうつろわせ、前髪を手で弄りながら

「……付き合うのは迷う……嫌じゃないのよ……何て言うか……」
雨音が清々しく二人と一匹の耳に届く。達雄は手を「パチン」と打つと言った。

「じゃあこうしよう。この雨が十分後に涙雨に変わってたら……俺と……その……付き合ってよ」

夏子は首を傾けると赤い顔で

「涙雨って何？」

「ほんのわずか降る雨だよ」

「でも今日は午後から大雨だよ」

「いいんだ。俺は雨が小降りなと思うから……」

「わかったわ。十分後に涙雨になってたらあなたと付き合うわ」

二人は腕時計に目をやり十分後の三時十五分になるのを待った。五分経った雨脚は強い。また四分経たまだ雨は大降りだ。ラスト一分さっきまで降っていた雨が嘘かのように雨脚が弱まる。そしてその時間になると雨の勢いは弱まりパラパラと降る涙雨に変わった。猫のルーンが喜びを表すように「ニャーオ」と鳴いた。

{おしまい}

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4811u/>

涙雨

2011年10月9日21時55分発行